

# 1 金沢市の概要

金沢の町の起こりは、蓮如の北陸地方の布教により一向宗徒の勢力が強まり、農民を中心とした信者が加賀の守護富樫政親を高尾城に滅ぼした後、真宗本願寺の末寺を「金沢御坊」として建立し、加賀一向宗の中心とし、以来、寺のまわりに、後町、南町などの町がつくられたことがはじまりとされています。

天正8年佐久間盛政により金沢御堂は攻め滅ぼされ、盛政はここに「金沢城」を築きました。天正11年盛政が賤ヶ岳で敗れ戦死したあと、七尾小丸山城にいた前田利家が金沢城に入城したのがこの年の6月14日とされています。以来、加賀、能登、越中を合わせた加賀百万石の城下町として繁栄を続けることになりました。

明治4年の廃藩後、金沢町となり、同22年4月1日市制が施行され、県庁所在地として、政治、文化、経済の中心として発展を続けてまいりました。大正13年以来10数次にわたる隣接町村の合併により市街地規模の拡大を図り、平成8年4月1日に中核市となって、現在に至っています。

稀有な歴史を有し、独自の発展を遂げてきた金沢が新たな高みへと飛躍するよう、「未来を拓く世界の共創文化都市・金沢」の実現に向けて、令和6年2月に策定した「未来共創計画」に基づき、様々な取組を行っています。

令和6年4月1日現在

(1) 市制施行	明治22年4月1日
(2) 面積	468.81km <sup>2</sup>
(3) 推計人口・世帯数	455,179人 211,188世帯
(4) 住民基本台帳人口・世帯数	442,895人 212,977世帯

## 加入者の皆さんへ

国民健康保険は、地域に住む人たちが、普段から保険料を出し合い、病気やけがなど医療費の支払にこれを充てることで、お互いの生活上の困難を分かち合い支え合うという目的から生まれた相互扶助の制度です。

国民健康保険は国民皆保険制度を支える大切なしくみです。また、保険料は制度を運営するための大切な財源になります。

今日の高齢化の進行や医療費の増加などの影響により、保険財政への影響に対する対応も求められていますが、皆様方と相携えて、これらの問題解決に当たっていきたくと考えております。より一層のご理解・ご協力をお願い申し上げます。